

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2894000088		
法人名	株式会社 サザンツリー		
事業所名	グループホーム・サザンツリー		
所在地	兵庫県姫路市飾西330 (電話) 079 - 266 - 2726		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年 2月20日	評価確定日	平成20年3月17日

【情報提供票より】(平成20年 1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 10人, 非常勤 10人,	常勤換算 16.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	26,250 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,120 円	

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名	
要介護1	6	要介護2	8			
要介護3	2	要介護4	0			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	83 歳	最低	70 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さかい病院、なべたにクリニック、つだ歯科
---------	----------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設後2年7ヶ月のグループホームで、利用者の生活にも落ち着きがあり、事業所のスローガンである「まるやかな生活」が実践されている。建物は平屋建てで、以前は酒蔵が並んでいた場所に建てられ、庭の奥には樹齢200年からなる事業所のシンボルである楠が2本と、中央にはみかんの木も植えられ、「入居者がゆっくりと、自然な生活を営みつつ、五感を刺激して命を全うする」という代表者の思いが感じられた。昨年末には、ケアリーダーとなる介護支援専門員も新たに採用され、常に介護の向上を目指している。今後も、地域からの理解と連携をより一層深め、利用者の笑顔のあふれる生活を増やしていただきたい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	今回で3回目の第三者評価となる。過去の評価で要改善となった項目については、ほぼ全て改善に向けて取り組んでいる。地域との連携にも改めて取り組んでいただきたい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	開設からの期間が、業務のマンネリ化しやすい時期でもあり、自己評価は全職員で取り組み、事業所は改めて業務の方向性を理解し、現状での自信に繋がった。事業所のさらなるグループホーム機能を活かした取り組みを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度、過去10回開かれており定着している。出席者は自治会役員・民生委員・入居者・家族・職員となっている。第三者評価についても意義などの説明を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	家族の代表も運営推進会議に出席はしているが、なかなか意見も出なかった。しかし、家族交流会を行ったところ、家族の横のつながりもでき、活発な意見が出てきた。今後は家族会の意見を運営に反映させていくため、家族交流会を年に2~3回定期的に開催し、意見を聞く機会にする。実現を望みたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	老人会の入会はしていないが、散歩を通じての会話などで地域に溶け込んできている。秋祭り・とんど・盆踊り等に参加している。また、幼稚園の生活発表会に招待されたり、小学校のマラソン大会時は沿道での応援、地域のボランティアの受け入れなど、交流することに努めている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者が目指すサービスのあり方を示した独自の理念は、開設2年を経てグループホームの存在と共に地域にも認識されてきた。「尊厳」「見守る介護」「家庭的」「笑顔」の柱からなるが、地域の中での位置づけは挙げていない。		制度改正に伴い地域との関係性を重視し、地域密着性型の役割を目指した理念を加えることを考えている。期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼時に唱和し、理念の実践に取り組んでいる。笑顔は何よりの薬と捉えるなど共通理解をし、具体的なケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の入会はしていないが、散歩を通じての会話などで地域に溶け込んできている。秋祭り・とんど・盆踊り等に参加している。また、幼稚園の生活発表会に招待されたり、小学校のマラソン大会時は沿道での応援、地域のボランティアの受け入れなど、交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で3回目の第三者評価となる。自己評価は全職員で取り組み、その方向性を理解して自信に繋がった。過去の評価で要改善となった項目については、ほぼ全て改善に向けて取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、過去10回開かれており定着している。出席者は自治会役員・民生委員・入居者・家族・職員となっている。第三者評価についても意義などの説明を行っている。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに成年後見人制度についての問い合わせをするなど、課題解決を図る上で市町の支援をうけ、連携の機会を持っている。ホーム便り「くすの木DAYS」を持って行き、グループホームの実情を知ってもらえるよう努めている。		運営推進会議に地域包括支援センターの職員の出席を要請し、次回より参加してもらえる予定。地域密着型サービスとしてさらに積極的な連携が図れるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が面会に来られる機会が多いので、その折にご本人の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等の報告を行うことが多い。面会時には経過記録を読んでいただき確認印をもらっている。また、2ヶ月に一度ホーム便り「くすの木DAYS」を発行している。月1回請求書を送付する際には、一筆箋に日頃の様子を書いて同封している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表も出席しているが、なかなか不満や苦情はでてこない。横のつながりを持つ機会である家族の交流会を行ったところ、活発な意見がでてきた。今後運営に反映させていく。		今はまだ交流会を定期的に行うには至っていないが、年2～3回開催しいろんな意見を聞く機会にしたいという思いがある。ぜひ実現させて欲しい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症をもつ入居者の方が、馴染みの職員の異動により少なくないダメージを受けることを認識している。近々異動の予定があるが、スムーズな引継ぎができるよう職員と話し合い、検討している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修には毎年2名参加している。交通費や研修費用も事業所で負担している。各種研修の案内などの情報の提供をしている。		もっと研修に参加したいという職員の思いも強く、今後もシフトローテーションにゆとりをもたせて各種研修に参加できるよう工夫してもらいたい。外部だけでなく内部の勉強会も設けてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や連携が大切だと認識している。他ホームへ機会があれば見学に行きたいと思っているが実現していない。		今年度、姫路市グループホーム連絡会が発足した。その活動に期待する。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のしっかりとしたアセスメントにより、親戚関係(家系図)まで把握し、近しい人の名前を挙げて話題に繋げていくなどの工夫をしている。職員も前もって状況を知り、受け入れる心構えをしている。また、入居者が声をかけ、助けられる時もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、介護する人・される人の境なく共に過ごし、支え合っている。調理の場面などで教わることも多く、職員もそんな機会を大事に思っている。まるやかな生活が送れるような場面づくりや声かけをしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>認知症介護実践研修に参加した職員の提案でセンター方式を取り入れた。何気ない会話や表情・行動から、一人ひとりの思いを把握する努力をしている。また、家族との会話の機会を増やし、情報を得るようにしている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>それぞれの職員が把握したセンター方式での情報を基に、月1回のカンファレンスで介護計画をたてている。家族には面会時に希望や意向を聞いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回のモリタリングを行い、3ヶ月に一度介護計画の見直しを行っている。体調の悪化などの時は、見直し以前でも家族や主治医の意見を聞き、新たな介護計画を立てている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>単独の事業所ではあるが、地域の店(美容院、スーパー、喫茶店他)の利用、近隣の幼稚園との交流、小学校行事への参加、自治会行事(とんど、祭り等)への参加、ボランティアの受け入れ等、適切な地域の社会資源への橋渡しとしての役割意識を持って臨機応変に支援している。ご本人、ご家族のニーズをきちんと把握し、生活圏域の中で認知症の人のニーズとサービス事業者のペアリング(二つでひとつになる、又は一対)を進めるべく努力している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医受診には、家族による通院介助をしてもらっている。かかりつけ医からの往診もあり、家族と連絡を密にして状況を互いに把握している。かかりつけ医には事業所から情報の提供を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設3年目で介護度の低い方が多く、重度化や終末期についての話し合いの場はもっていない。		できるだけ早い時期から、本人・家族の意向を確認し、事業所としてできること・できないことを見極め、どう対応していくのか方針を話し合ってもらいたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の対応は穏やかで誇りやプライバシーを損ねない。個人情報の取り扱いに関しても、漏洩防止・秘密保持を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴を把握し、本人本位の支援を行っている。したいことを大切に、状態や思いに配慮して無理強いはない。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	少人数で職員と買い物に行き、食材を見ながら一緒に献立を考えている。(昼・夜の一品)調理も共同で行い、準備から後片付けまで役割を持ち、活き活きと行っている。また、外食の機会や行事食などを楽しむことのできる支援もしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しめるよう、気の合った方同士の入浴を実施している。入浴が好きな方は毎日の入浴に対応、嫌いな方には入浴のチェック表を見ながら声かけし、入浴をうながしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、入居者一人ひとりの思いを生活歴より見出し、一人ひとりに合った楽しみや役割の場面づくりを支援されている。庭の掃除や調理が得意な方の役割、外食や毎日の散歩、ドライブによる季節折々の花見の楽しみ・気晴らしを通して、一人ひとりが自分らしい姿を蘇らせて生きていくことを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけている。喫茶店に行ったり、外食の機会も月1回は設けており、楽しみにされている。東ユニットは週2回は職員と買い物に出て献立を考え、食材を選んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しており、玄関の鍵はかけていない。ただ、門扉は町内で投石の被害があり施錠しているが、外部からの進入防止のため、内から外へ出るのに支障はない。敷地はゆったりしており、塀は高めだが家庭菜園や井戸のある庭もあるので閉塞感はない。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年1回の避難訓練・年2回の防災機器の点検を実施している。2ユニットあるが平屋で、今は車いすの方も少なく、避難は比較的困難ではないと思える。緊急時マニュアルを備えている。</p>		<p>災害時の避難には、地域住民の協力も大きな力として期待される。夜間の災害など職員の人数が少ない時の設定で、近隣の住民も含めた避難訓練の実施が望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>バイタルチェック表に1日3食の食事量や水分量を記録し、問題がないか確認している。糖尿病の方には盛り付けを工夫するなど、状態に応じた支援をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは明るく広々としており、ソファが置かれて落ち着けるスペースになっている。共に作成したちぎり絵や習字が飾られ、日々成長するヒヤシンスの鉢が季節感を醸し出していた。家庭的な浴室・トイレは3枚の開き戸で、不快な音や光はなく安全にも配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>整理ダンスとカーテンは共通だが、思い思いの家具などの持ち込みにより個性のある居室となっている。ゆったりしたスペースで、家族による手作りの品が飾られていたり、いろんなぬいぐるみがかかれていたり、それぞれ居心地の良い自分の部屋という意識をもって過ごされている。</p>		

 は、重点項目。